

PCSA アクションレポート(依存問題対策プロジェクトチーム)

平成 31 年 3 月版

第 24 回依存問題対策プロジェクトチーム

開催日時 平成 31 年 3 月 30 日（土） 午前 10 時 30～午後 12 時 30 分
 開催場所 PCSA 会議室
 出席人数 メンバー 7 名、合計 7 名
 出席者 <リーダー>
 辻 良樹 株式会社ダイナムジャパンホールディングス 法務グループ グループ長
 <サブリーダー>
 荒田 政雄 夢コーポレーション株式会社 監査役
 <メンバー>
 玄 昌起 株式会社ダイナム 営業推進部 業務担当
 須藤 暁 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 リスク管理担当
 佐久間 仁 株式会社ニラク 法務部 部長代理
 住谷 一真 夢コーポレーション株式会社 運営推進部 部長
 武内 好努 アメニティーズグループ（株式会社パンドラ） 営業支援部 兼 監査室 課長

1) 21 世紀会 依存フォーラム実行委員会

辻リーダーより下記の概要、経緯などが説明された。ギャンブル等依存症対策基本法に定められているギャンブル等依存症問題啓発週間（5 月 14 日～5 月 20 日）に関連し、パチンコ業界として啓発週間初日の 5 月 14 日に「パチンコ・パチスロ依存問題フォーラム」の開催を決定、その実行委員会として依存フォーラム実行委員会を設置した。

<第 1 回 依存フォーラム実行委員会 平成 31 年 3 月 8 日>

検討内容

- ・ポスターチラシについて
- ・依存フォーラムの講師料
- ・設置ブースについて
- ・各団体からのヘルプ

<第 2 回依存フォーラム実行委員会 平成 31 年 3 月 28 日>

検討内容

- ・修正ポスター内容確認
- ・ポスター配布先について
- ・参加申込みの詳細、方法について
- ・新聞への広告掲載について

記

名称：パチンコ・パチスロ依存問題フォーラム

開催日：平成 31 年 5 月 14 日

時間：午後 2 時～午後 7 時 30 分

場所：東京都中野区の生涯学習・文化芸術活動拠点施設

「なかの ZERO(もみじ山文化センター)」小ホール（客席 507 席）

- 目的：1. 「安心パチンコ・パチスロアドバイザー」を対象に、パチンコ・パチスロ依存問題に関する対応の現状と課題を明らかにするとともに、各店舗におけるアドバイザーの活動状況と得られた教訓を共有し、アドバイザーの活動のさらなる強化と質的向上を図る。
2. パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組んできた又は取り組もうとする団体に対して全日本社会貢献団体機構が行う、当該団体の事業活動に対する特別助成について、助成金の贈呈式を行う。
3. 依存問題啓発週間(5/14~5/20)にあたり、一般市民を対象に、パチンコ・パチスロ依存問題に対する正しい関心と理解を求め、依存問題の予防と解決に資する。

スケジュール案：

第 1 部 基調報告 対象：パチンコ・パチスロ安心アドバイザー

「パチンコ・パチスロ依存問題に関する対応の現状と課題」

・事例報告：「RSN への出向を終えて」 ※パネルディスカッション

出向によって得たものと地元に戻ってからの店舗をはじめとした取組み内容の報告

・総括報告：「第 1 部のまとめ」 RSN 西村直之代表（予定）

第 2 部 経過報告

「特別助成の経過報告」全日本社会貢献団体機構 会長（予定）

・贈呈 ・助成金の贈呈 ・挨拶 ・被助成団体代表からの挨拶

第 3 部 基調報告 対象：一般

「(仮題)パチンコ・パチスロ依存問題の正しい理解のために」 RSN 西村直之代表（予定）

・事例報告 ・団体機構助成団体その他依存問題関係団体の活動 ・事例報告

以上

部会では、第一部の参加対象となる安心パチンコ・スロットアドバイザーの関東在籍者の人数から、会場のキャパシティで十分なのかという意見が出た。また、本フォーラムについてはおそらく今後継続するという情報を共有した。

2) ギャンブル等依存症対策推進関係者会議について

辻リーダーより下記の概要が説明された。

<第 1 回ギャンブル等依存症対策推進関係者会議>

開催日：平成 31 年 2 月 20 日

概観：第 1 回で自己紹介や業界の取組報告などが多かった。

発言：阿部 恭久 委員（全日遊連 代表）

- ・業界活動報告。
- ・業界としては行き過ぎた遊技は良くないと考える。
- ・出玉規制が依存対策として逆効果になっていないか。

中村 努 委員（認定 NPO 法人ワンダーポート 理事・施設長）

- ・ワンダーポート活動報告。
- ・依存症と発達障害の切り分け。
- ・依存の原因として背景となる家庭環境も重要視すべき。

- ・家族申告プログラムで、居場所となっているパチンコを禁止してしまうことの危険性。
- ・依存の教育とは、お金の使い方、余暇の過ごし方。

<第2回ギャンブル等依存症対策推進関係者会議>

開催日：平成31年3月6日

概観：第1回で自己紹介や業界の取組報告などが多かった。

発言：阿部 恭久 委員（全日遊連 代表）

- ・18歳未満問題について
- ・ATMと独禁法問題について。
- ・外国でギャンブルと見なされている「宝くじ」が、日本ではギャンブルではなく、依存の対象にもなっていないのはどういうことか。

中村 努 委員（認定NPO法人ワンデーポート 理事・施設長）

- ・厚生労働省の発表したギャンブル依存の人数は、既に依存から脱している人が大多数を占めている。
- ・依存症と発達障害の切り分け。
- ・厚生労働省のホームページに依存は脳の病気だという記載があったがどういう事なのか。

部会では、公式な国の会議で当PT内と似たトーンでの話がされており、現状認識として大きな差がないことへの安堵感が述べられた。また、依存に対する広告宣伝規制や、顔認証の要請が今後どうなるという情報が共有された。

3) 一般社団法人日本遊技関連事業協会 ガイドラインについて

一般社団法人日本遊技関連事業協会（以降、日遊協）が自主的に作成している依存問題対策ガイドラインの内容について、佐久間 仁 部員から説明があった。焦点となったのは、家族申告プログラムの申込み要件に診断書又は経済要件といった新たな条件を検討していることであった。又、部員間で具体的な運用手法などについても情報を共有した。

4) のめり込みアンケートについて 企業 A・B

2 企業において、依存対策アンケートを従業員向けに実施。その内容について説明がされた。A社は公表値と比較して重度が若干多めであり来期も継続するとの事。B社は2年前のアンケートであり、ほぼほぼ公表値通りの数値だった。近々再度アンケートを実施したいという事だった。部員からは一般向けの設問と、従業員向けの設問を分けるべきではないかという意見が出た。これは、社員がパチンコをする際に「余暇」ではなくあくまでも「仕事」の一環として遊技することがあり、これをアンケートに含めないのではないかという懸念があるためである。今後の事を考え、認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク 西村 直之 代表に従業員向け設問について確認する事とした。

5) 依存問題基礎講座について

本件について、参加部員から説明があった。

開催日：平成31年3月3日

テーマ：津久井やまゆり園事件から障害がある人の「幸せ」について考える

講師：知的障害者生活介護型支援施設 横浜市松風学園 生活支援員 大橋 俊弘 様

話の趣旨：知的障害者入所施設の歴史を振り返り、何が変わり何が変わっていないのかを共有し、『共生社会』とは何かを考える。

※津久井やまゆり園事件、または相模原障害者施設殺傷事件（さがみはら しょうがいしゃせつ さっしやう じけん）とは、2016年（平成28年）7月26日未明、神奈川県相模原市緑区千木良476番地にある、神奈川県立の知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」に[1]、元施設職員の男A（犯行当時26歳）が侵入し、所持していた刃物で入所者19人を刺殺し、入所者・職員計26人に重軽傷を負わせた大量殺人事件である。

殺害人数19人は、第二次世界大戦（太平洋戦争）後の日本で発生した殺人事件としてはもっとも多く、戦後最悪の大量殺人事件として、日本社会に衝撃を与えた。

参加者からは、津久井やまゆり園事件とは重度でコミュニケーションがとれない障害者は生きるべきではないと考える犯人によって施設内で多数の障害者が殺傷された事件で、かなり難しい話だった。その中で重い障害を持っていても余暇としてパチンコならば遊べると言及されていた。

6) 一般社団法人遊技産業健全化推進機構 第16回実務者連絡会議について

平成31年2月1日に開催された一般社団法人遊技産業健全化推進機構（以降、機構）の第16回実務者連絡会について参加者より報告がされた。その議題の中に、「ホールの依存問題対策の実施状況確認の為の調査のお願い」に関する議題が含まれており、その件についてPT会合で報告がされた。

パチンコ業界の21世紀会より、機構に「ホールの依存問題対策の実施状況確認の為の調査のお願い」を送付。内容は、ホールの依存問題対策の実施状況を第三者的な視点で調査していただきたいという内容。これを受けた機構は、1月16日の定例理事会で承認、さらに3月11日の臨時写真総会にて、調査実施の為に定款の一部変更を予定。そして、4月中のギャンブル等依存症対策基本法の閣議決定を待ち、開始するとのことだった。今回のPT会合で注目されたのは、「依存防止対策への取組状況を確認する調査実施要項（案）」内の「機構 依存防止対策調査チェック表」で、大7項目それぞれにRSNポスターの掲示の有無、場所、安心パチンコ・パチスロアドバイザーの在籍状況の確認、リーフレットの有無、自己申告・家族申告プログラムの導入、子供の事故防止などが上げられていた。実際にどの様にチェックされるのか。記載されているトイレや休憩所など複数の場所全てにポスターの掲示が必須なのか、などの疑問が出された。

7) 次回開催

平成31年4月20日(土)

午前10時30分～午後12時30分

PCSA 会議室

以上